

2021.10-12

資産運用状況
Quarterly Report

金属事業企業年金基金

用語の解説

- 修正総合利回り

資産の運用成果を評価する評価基準の一つで、簿価ベースの平均残高利回りである総合利回りの分母に前期末の評価損益および未収収益を加えることによってより時価に近い金額に修正した収益率。

計算式：修正総合利回り(%)=(実現損益+未収収益増減+評価損益増減)÷(元本平均残高+前期末未収収益+前期末評価損益)×100

- ベンチマーク

運用成果を評価する際に相対比較の対象となる基準指標のことをいい、市場の動きを代表する指標を用います。

国内債券・・・NOMURA-BPI総合

野村証券金融工学研究センターが算出・公表する日本の公募債券流通市場全体の投資収益指数で、1983年(昭和58年)12月末を100として指数化したもの。

国内株式・・・TOPIX(配当込み)

東京証券取引所が東証一部に上場する国内株の全銘柄の時価総額を基に算出する株価指数で、1968年(昭和43年)1月4日を100として算出したもの。

外国債券・・・FTSE世界国債インデックス(除く日本)

ロンドン証券取引所グループのFTSEラッセルが算出・公表する世界主要国の国債の投資収益指数で、1984年(昭和59年)12月末を100として算出したもの。

外国株式・・・MSCI-KOKUSAI

モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社(MSCI Inc)が算出・公表する国際的な株価指数で、日本を除く先進国22カ国の上場企業の株価指数で構成。

2021年度第3四半期運用状況

2021年10月は、米長期金利の上昇や中国経済の減速などが重荷となったものの、好決算を発表した企業が買われるなどして欧米株式は上昇しましたが、国内株式は新政権による政策期待が後退したことなどから下落しました。

11月は、良好な企業業績等を背景に上昇する局面もありましたが、月末に新型コロナウイルスの新たな変異株であるオミクロン株の出現を受けたリスク回避姿勢の強まりから世界的に下落しました。

12月は、前月にオミクロン株への警戒感から下落したものの、重症化リスクが低いとの分析結果が発表されたことや経口治療薬への期待等から過度な警戒感が和らいだことを受けて反発しました。

一方、内外の10年国債利回りは、米金融政策正常化が早まるとの見方を受け上昇（債券価格は下落）する局面と、オミクロン株への警戒感によるリスク回避姿勢の強まりから低下（債券価格は上昇）する局面とが交錯しました。

このような市場環境の下、当基金の第3四半期における収益率は、資産の大半を占めるパッシブ資産が2.39%、オルタナティブ資産は1.49%、両資産を合わせた資産全体では2.33%となりました。また、資産全体の2021年4月から12月末までの年度通期の収益率は4.33%となりました。

	2020年度	2021年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	6.64	1.66	0.40	2.33		4.33
収益額(千円)	190,488	55,288	14,182	84,671		154,141
期中元本平均残高(千円)	2,868,495	3,336,595	3,577,880	3,630,525		3,556,745
期末運用資産額(千円)	3,191,713	3,582,937	3,665,955	3,812,649		3,812,649

(注) 収益率は修正総合利回り。

1. 2021年度 第3四半期運用環境

【各市場の動き（10月～12月）】

国内債券：10月の10年国債利回りは、米長期金利の上昇が国内市場にも波及したこと等から0.10%まで上昇（債券価格は下落）しました。11月は、欧米の長期金利が低下したことや新型コロナウイルスの新たな変異株であるオミクロン株への警戒を受けたリスク回避姿勢の強まりから買いが優勢となり0.05%まで低下（債券価格は上昇）しました。12月は、前半は各国でオミクロン株の感染者が相次いで確認され、リスク回避姿勢が強まったことで利回りは低下しましたが、月末は米長期金利の上昇を受け0.07%まで上昇しました。

国内株式：10月は、月前半は新政権への政策対応の期待が後退したほか、米長期金利上昇や原油高の進行で市場心理が悪化し、売りが先行しました。中旬にかけては円安・ドル高の進行が好感され反発したものの、後半は中国経済の減速や原材料高による企業業績の悪化懸念から上値の重い展開が続きました。11月は、10月末の総選挙で与党が事前予想を上回る議席を獲得したことで買いが先行しましたが、月末にかけてはオミクロン株への警戒感が高まり、大幅に下落しました。12月は、オミクロン株の感染拡大が懸念された一方、米国株式が上昇したことを受け国内でも買戻しの動きが強まり、月末の日経平均は2万8700円台後半で終わりました。

外国債券：10月の米国10年国債利回りは、世界的なサプライチェーンの混乱やエネルギー価格の高騰を受けたインフレへの警戒感の高まる中、FRBが金融政策の正常化を早めるとの見方から1.56%に上昇しました。11月は、オミクロン株の出現によるリスク回避姿勢の強まりから1.45%に低下しました。12月は、オミクロン株の重症化リスクが低いとの分析や経口治療薬への期待から過度な警戒感が和らいだほか、FOMCにおいてテーパリングのペース加速が決定されたことで1.51%まで上昇しました。

外国株式：10月の米国株式は、与野党による債務上限問題の先送り、金融大手の好決算、小売売上高の改善などを背景に上昇しました。11月は、インフレの高騰に伴う早期利上げ観測の再燃やオミクロン株に対する警戒感の高まりから下落しました。12月は、オミクロン株の重症化リスクが低いとの分析や経口治療薬への期待、好調な年末商戦などを背景に反発し、12月末のNYダウは3万6300ドル台前半で終わりました。

◇参考指標

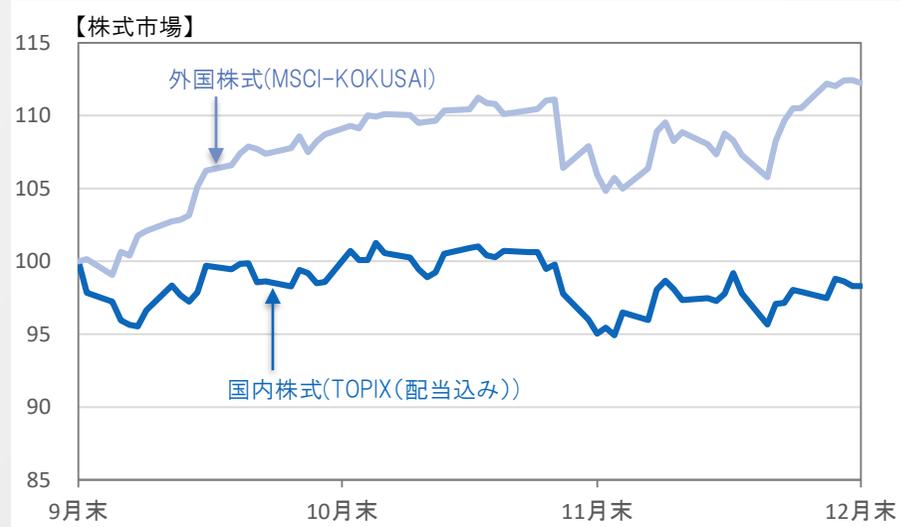
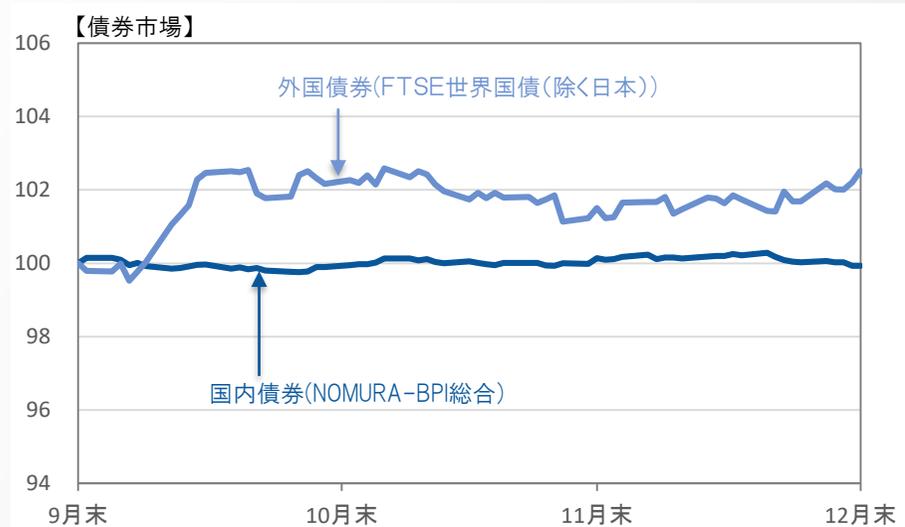
		2021年3月末	2021年9月末	2021年10月末	2021年11月末	2021年12月末
国内債券	10年国債利回り (%)	0.12	0.07	0.10	0.05	0.07
	TOPIX配当込み (ポイント)	3,080.87	3,234.08	3,188.28	3,073.26	3,179.28
国内株式	日経平均株価 (円)	29,178.80	29,452.66	28,892.69	27,821.76	28,791.71
	米国10年国債利回り (%)	1.74	1.49	1.56	1.45	1.51
外国債券	ドイツ10年国債利回り (%)	-0.29	-0.20	-0.11	-0.35	-0.18
	NYダウ (ドル)	32,981.55	33,843.92	35,819.56	34,483.72	36,338.30
外国株式	ドイツDAX (ポイント)	15,008.34	15,260.69	15,688.77	15,100.13	15,884.86
	ドル/円 (円)	110.50	111.58	114.02	113.55	115.16
為替	ユーロ/円 (円)	129.87	129.31	131.95	127.80	130.95

◇ベンチマーク収益率

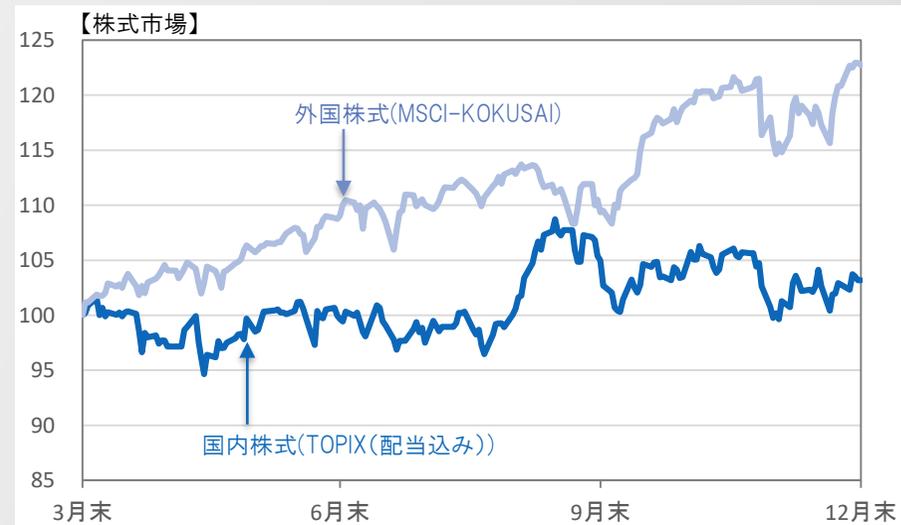
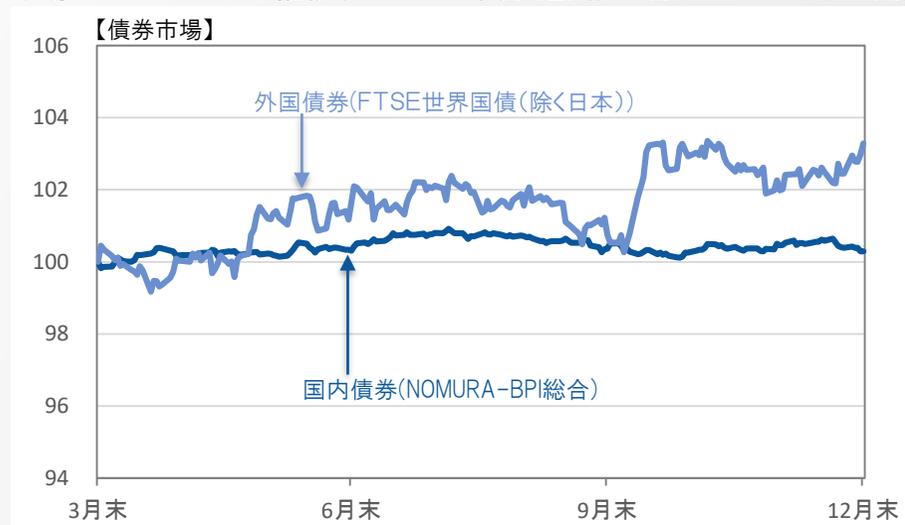
	2021年10月～12月
国内債券 NOMURA-BPI総合	-0.07 %
国内株式 TOPIX(配当込み)	-1.69 %
外国債券 FTSE世界国債(除く日本)	2.52 %
外国株式 MSCI-KOKUSAI	12.24 %

(注)ベンチマーク収益率は、期中のキャッシュフローを考慮しない収益率

市場ベンチマークの推移(2021年度 第3四半期) 9月末=100とした市場の動き



市場ベンチマークの推移(2021年度 通期) 3月末=100とした市場の動き



2. ファンド別資産クラス別収益率・収益額の状況

(1) パッシブ資産

	2020年度	2021年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	7.05	1.71	0.31	2.39		4.47
国内債券	-1.07	0.09	0.07	-0.08		0.04
国内株式	35.16	2.47	5.29	-1.66		5.80
外国債券	7.56	2.68	-0.89	2.54		3.78
ヘッジ外債	3.38	1.09	-0.23	-0.06		0.41
外国株式	51.04	8.38	0.28	12.22		21.04
短期資産	-0.03	-0.01	0.00	2.45		0.54

	2020年度	2021年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益額(千円)	179,848	49,995	9,795	78,864		138,654
国内債券	-652	82	105	-136		51
国内株式	32,823	3,748	13,696	-4,576		12,868
外国債券	4,668	2,528	-1,437	4,154		5,245
ヘッジ外債	25,366	12,278	-4,380	-1,194		6,705
外国株式	118,065	31,512	1,813	78,186		111,510
短期資産	-421	-152	-3	2,430		2,274

(注) 短期資産の第3四半期の収益は、みずほ信託委託私募REITにかかる第14期(2021年7月期)決算に伴う分配金の受入れによるものです。

(2) オルタナティブ資産

	2020年度	2021年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	3.30	1.27	1.03	1.49		3.43
みずほ信託	4.48	0.00	1.93	0.00		1.85
第一生命	1.12	2.75	-0.15	1.80		4.60
りそな銀行	4.03	1.33	1.10	1.18		3.64

	2020年度	2021年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益額(千円)	10,639	5,293	4,387	5,807		15,487
みずほ信託	5,420	0	2,283	0		2,283
第一生命	1,119	2,775	-160	3,340		5,955
りそな銀行	4,100	2,518	2,264	2,467		7,250

(参考) オルタナティブ資産のプロダクト

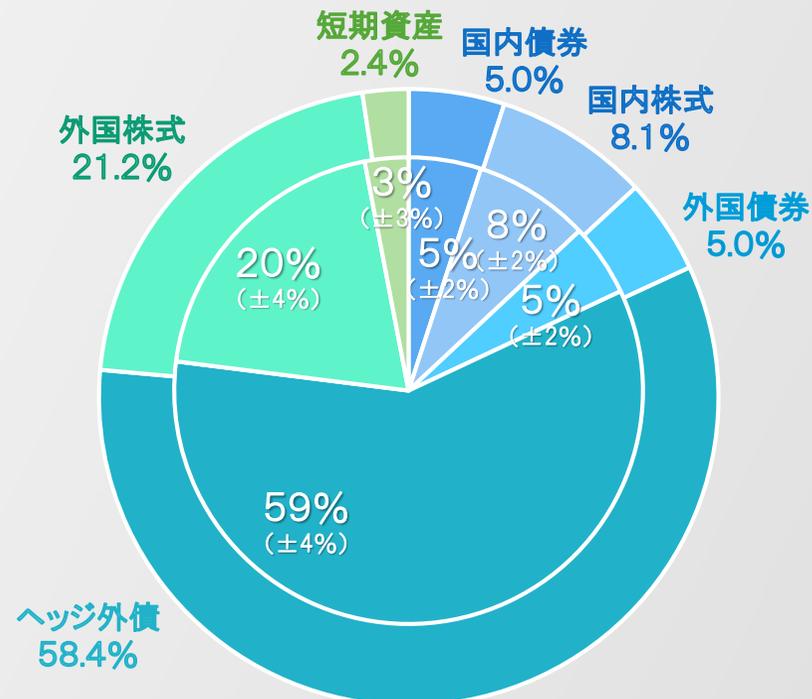
みずほ信託：私募REIT(丸紅プライベートリート)，第一生命：マルチアセット(第2総合口)，りそな銀行：マルチアセット(総合口N)

(注) みずほ信託委託の私募REIT(丸紅プライベートリート)は、2021年9月末をもって解約しております。

3. 運用資産額・構成割合

(1) パッシブ資産

	資産額 (千円)	構成割合	基本ポートフォリオ		乖離
			中心値	許容乖離幅	
国内債券	168,072	5.0%	5%	±2%	0.0
国内株式	274,629	8.1%	8%	±2%	+0.1
外国債券	169,944	5.0%	5%	±2%	0.0
ヘッジ外債	1,981,443	58.4%	59%	±4%	-0.6
外国株式	720,331	21.2%	20%	±4%	+1.2
短期資産	79,888	2.4%	3%	±3%	-0.6
合計	3,394,308	100.0%	100.0%		—



内側：基本ポートフォリオ(カッコ内は乖離許容幅)
外側：2021年12月31日時点

(2) オルタナティブ資産

	資産額(千円)
第一生命	207,073
りそな銀行	211,268
合計	418,341

(3) 資産全体

	資産額(千円)
パッシブ資産	3,394,308
オルタナティブ資産	418,341
合計	3,812,649